



【日本初。クラウドファンディングの知見を映画館運営に】

線路跡地を開発した新しい街「下北線路街」に、ミニシアター『K2』が誕生
「オンラインとのハイブリッド」により、持続可能な劇場公開の仕組みに取り組む

11月8日10時より、クラウドファンディング開始！

1日館長、内覧会ご招待、オリジナル雑誌創刊記念号などのリターンをご用意

クラウドファンディング・プラットフォームを運営する株式会社MotionGallery（本社：東京都港区／代表取締役：大高健志）は、2022年1月、「下北線路街」の商業施設、シモキタエキウエ直結「(tefu) lounge (テフ ラウンジ)」に企画プロデュース団体、Incline（インクライン）の主体社としてミニシアター『K2（ケーツー）』を立ち上げます。オープンに先駆け、11月8日（月）より、1日館長、内覧会ご招待、オリジナル雑誌創刊記念号などをリターンにご用意したクラウドファンディングを開始し、日本で初めてクラウドファンディング・プラットフォームが運営に携わる映画館として挑戦してまいります。▶
クラウドファンディングページ：<https://motion-gallery.net/projects/k2-cinema>

K2
シモキタ
エキウエ
シネマ

演劇の聖地、ライブハウスの聖地、サブカルの聖地、飲み文化の聖地。様々な文化が深く根付く下北沢に、それぞれの文化の結節点であり、そしてシモキタを愛する人達の共有地となるようなミニシアターの誕生を目指してまいります。応援のほど、よろしくお願いたします。

『K2』が目指す新しい映画館のかたち

・文化が好きな人たちの結節点となるような映画館

インディペンデントでクロスカルチャーでボーダレスな総合芸術だった映画には、いつも「最新」で「多様な社会や文化が宿っていました。映画が持つ力を体現する場として映画館を捉え、物販、館全体でのテーマイベントなどを通して、映画館の魅力を再獲得し、下北沢という街の文化性に貢献し、街に活気をもたらします

・普遍的な学びを共有する場所として

多種多様な文化が混じり合う映画の、多様な側面に光を当てて「学び」を、映画館として発信・共有するようなチャレンジをしていきます。

1.雑誌『K2』の発行 ～上映する作品の多様な面白さや背景を深掘りする雑誌をほぼ月刊のイメージで発行し、映画文化を通じた”学び”自体を広めていきます。

2.オンラインスクリーンでの特別上映プログラム ～『K2』で上映する作品の関連作品や、同時にみることで新しい意味が生まれる様な作品をセレクトし、オンライン配信します。

・”コモンズ”としての映画館

昨今、小さなコミュニティに注目が集まったり、個人がSNSなどを使って発信する方が大手ブランドよりも信頼を得る、という状況があります。また、売り手と買い手が直接やり取りすることが増え、画一的ではない、違いのあるものが増えています。これは時代の変化をコロナが後押しし、明確にしたとも感じています。個人同士の距離が近く、役割の境界が混ざってきている今、「自分ごと」としてモノゴトが最初から作られ消費されていっています。街の映画館、『K2』にも街との対話、双方向のコミュニケーションが必要です。そこで「コモンズ=共有地」をコンセプトに掲げ、街の声が映画館に反映され、「自分ごと」が増えるよう、プログラムの一部を街のプレイヤーに開いていきます。街の文化のづくり手として、街の人が参加者に。消費者ではなく当事者を生み出す場所となることで、新しい才能を生み、映画人口の拡大にも寄与することを目指します。

・コロナ禍に新しく生まれる映画館だからこそ。オンラインとオフラインのハイブリッドの形

1. Inclineが立ち上げる、映画館での劇場公開に連動したバーチャル・スクリーン『Reel』

『Reel』で上映される作品は、映画館で実際に上映されている期間に限り有料でオンライン鑑賞できます。その売上の一部は、その作品を上映している各劇場に均等に配分します。オンライン上映で発生する利益を、デジタルが浸透している都市だけでなく地方の劇場にも等しく分配することで、日本全体の映画文化を担保し続けようとするアクションであり、リアルとバーチャルでの映画鑑賞の体験を、相互に補完する狙いもあります。

『Reel』に第一回作品として迎えるのは、『K2』のこけら落とし上映作品でもある、第71回ベルリン国際映画祭にて銀熊賞（審査員グランプリ）を受賞した濱口竜介監督「偶然と想像」です。『K2』ではこの『Reel』の取り組みと積極的に連動し、良い事例を生み出すことで、持続可能な劇場公開の選択肢を、全国の映画館の皆さまと一緒に考えています。

2. ベーシック・インカムプラットフォーム『BASIC』を使った『K2』のファンコミュニティの立ち上げ

ストック型で持続的な支援につながる月額参加型のコミュニティを通じ、より深い『K2』のファンになっていただき、皆様の映画体験をより豊かにしていくためのアクションを行っていきたくと考えています（前述の「オンラインスクリーンでの特別上映プログラム」はこちらに含まれます）。『Reel』とは異なり『K2』単体のアクションとして、『K2』で上映する作品の関連作品や、同時に鑑賞することで新しい意味が生まれるような作品を『K2』でセクションし、オンライン配信する。『K2』という映画館で映画を観た後、お家でも『K2』のオンラインスクリーンで更にその作品の世界観や映画体験を広げていく、そんな体験と学びを提供します。

なぜ、今ミニシアターをつくるのか？

・新しい下北沢に生まれる、新しい映画館

2019年、下北沢は、小田急線「東北沢駅」～「世田谷代田駅」の地下化に伴い、全長約1.7kmの線路跡地を開発して生まれる新しい“街”「下北線路街」（<https://senrogai.com/concept/>）が立ち上がろうとするタイミングでした。ここに新しく映画館をつくれなかと、相談が舞い込んだことから『K2』の物語は始まりました。

・コロナ禍の発生

2020年1月、コロナが国内で猛威を振るい始め、時に映画館は名指しもされながら、強い自粛を求められました。その中で顕在化したのが、ミニシアターへの多大な影響です。映画館という特殊な施設には、立ち上げや運営には少なくない予算が必要です。それだけでなく、長い時間をかけて地域に文化を育ててきた場所という意味においては、一度失われるとその回復は容易ではありません。ビジネス的な目的よりも文化的な目的に向けて運営されていることが多いミニシアターは、このコロナ禍が与えた経営的な影響は甚大でした。

・改めて感じたミニシアターの社会的意義

MOTION GALLERY代表の大高も発起人を務めた『ミニシアター・エイド基金』は、「その状況に少しでも時間的余裕を」と始まりました。これがミニシアターの存在の大きさを改めて教えてくれる、非常に特別な契機となりました。「ミニシアターを守りたい」という映画ファンの大きな大きな声、またその声から私たちは、各地のミニシアターがどれだけ地域に根ざした活動を、日々コツコツと行ってきたのか、と強く実感しました

・新しい映画館のかたちへの挑戦

ミニシアターは、その街の文化を映す鏡のような場所であり、文化の多様性を私たちに教えてくれる場所になっている、そんな社会的意義をコロナ禍で改めて共有・認識したことで、ミニシアターが新しく生まれることに、映画作品の出口がまた一つ増えるというような単純なことではなく、下北沢という街のための新しい文化施設が生まれ、年齢も性別も関係なく、街の人（＝住民の方も働きに来ている人も遊びに来ている人もみんな）が思い思いに立ち寄れる“共有地”が増えることだと考えるようになりました。下北沢という文化の土壌がある中に立ち上げられるのだから、最初から街の交流装置として位置づけられていたら、それだけで他の街とは絶対に違うミニシアター像というのが立ち上がるはずです。また、映画界の発展にも貢献できる、映画界の共有地としてのチャレンジにも取り組み、新しい映画館のかたちを生み出して行きたいと願っています。

北原豪によるコメント：

Incline LLP役員／株式会社Sunborn代表／株式会社weroll共同代表

僕は10代20代をミュージシャンとして下北沢のライブハウスで過ごし、30代で音楽を辞めてからも下北沢の文化や街が好きで、今は住民として子育てしながら過ごしています。このプロジェクトには、地域住民としての自分と、過去の表現者としての自分も含めた、夢の実現として取り組んでいます。ミュージシャンだった昔の自分がヒントを掴んだり、子どもたちが成長に合わせて刺激（時にちょっと背伸びした）を受けたり。年代関係なくみんな自然と居合わせて、混ざっていて、居合わせている以上の理由もいなくて、連帯や共感を感じられる場。そんな場があったらとても素敵です。映画館にはある種公共性があって、それが年代や好きなジャンルを飛び越えて、受け容れて繋げてくれる力があると思っています。そもそも下北沢には色んなジャンルの表現やモノがある。すごいポテンシャルです。でも意外と交流はしていない。少なくとも若い自分がそうでした。その境界がもっと混ざったらどうか。その可能性にとっても夢を感じています。新しい映画館『K2』を、そういった「街の仕掛け」にしていきたい。その仕掛けが生み出すものを一緒に見つめて育てていける仲間が増えることを願っています。



K2の入居する「(tefu) lounge」施工中の様子を背景に（左：北原 / 右：大高）

大高健志によるコメント：

Incline LLP役員／MOTION GALLERY代表／映画プロデューサー／さいたま国際芸術祭2020キュレーター

僕は、これまで一番影響を受けている時間は「映画館で映画を観る時間」だと実感することが多く、この本当に貴重で重要だと感じる文化発信の場に携わることの大きさを改めて感じています。映画が大好きで映画館に通い詰めていたものの映画に関わる仕事に就こうとなんて思っていなかった学生時代。しかし政治哲学という一見遠い領域を専攻していたことで結果的に映画やアートに携わりたいという方向性に導かれたり、はたまた脱サラして藝大に進学したのにそのまま映画製作ではなくクラウドファンディングを立ち上げるというこれまた一見遠い領域で活動し始めたのが結果映画館の運営に携わることになったりと、本当に不思議なご縁を感じています。一方で、そんな振れ幅の中でも「文化」と「公共性（もしくは親密圏）」という社会彫刻という概念に収斂するワードが常に僕の中では活動に共通していました。映画館「K2」のコンセプトとして、下北沢の文化的”コモンズ（共有地）”を掲げさせていただきましたが、まさに文化の公共性である映画館を、下北沢に関わる人たちが主役となるコモンズとして運営していくことで、きっと下北沢に、そして映画文化に貢献することが出来るのではないかと考えています。もしかしたら向こう見ずな挑戦かもしれませんが、ぜひ1人でも多くの方に応援いただき、そしてそして1人でも多くの人に「映画館で映画を観る時間」をより良く届けることが出来るように頑張っていきたいと思えます。応援よろしくお願ひします。

応援コメント

下北沢トリウッド代表/ポレポレ東中野代表 大槻貴宏氏：

K2開館、おめでとうございます。現下北沢唯一の映画館としては、お客さんや作品を奪われやしないかとドキドキして...というのは冗談で（笑）、本当に心から楽しみにしています。演劇でも古着屋さんでも複数ある方が、お客さんの選択肢が増え、それにより全体のパイを増やせるのだらうし、ひいてはそれが文化になっていくのだらう、とお互い、もっと面白いもっと変なことを探して、様々なものと出会える街を目指していきましょう。

本多劇場グループ総支配人 本多慎一郎氏：

下北沢にミニシアターオープン、映画界も音楽会も演劇界も厳しい時代にとっても明るいお話です。下北沢はライブハウスも劇場も多い街で映画館はトリウッドさんだけでした。この状況で映画館をオープンされることに意気込みを感じます。芸術文化とか堅苦しい言葉抜きで街の皆様が気軽に観に来られて、楽しんでもらえる場所として映画館もライブハウスも劇場にも来ていただきたいと思っております。作品を観てもらえて、語り合い、集まれる場所。観た後も観る前も下北沢は温かい街です。ご一緒に少しでも下北沢を御盛り上げて行ければと思っております。応援してます。

クラウドファンディング概要

資金の主な使い道：現在「(tefu) lounge」は無事竣工に向け着々と工事が進捗しています。一方で、今後『K2』の開館に向けて初動の費用が発生しています。具体的には、多様な文化を紹介していき、地域との交流も深めながらハブとして機能するための体制の確保や、上映以外でも積極的に作品の魅力、背景にある歴史などを伝えていくような取り組みをオンライン配信や冊子、イベントで行って行きたいと考えています。

プロジェクト名：東京・下北沢の線路跡地に生まれた新しい“街”の入り口に、文化の共有地となるミニシアター『K2』が誕生します。

期間：1月31日23:59まで 目標金額：3,000,000円 リターン：500円～250,000円

ちょっと気になるので応援（500円）、映鑑賞券で応援（3,500円）、K2オリジナルZine+Tシャツで応援（10,000円）、「ハイロック×K2」スペシャルコラボTシャツ1枚で応援（15,000円）、K2応援アイテム全部入りで応援（30,000円）、K2立ち上げサポーターになって応援（50,000円）、半日館長になって応援（100,000円）、K2スペシャル立ち上げサポーターになって応援（250,000円）

1日館長になって応援（250,000円）

公式ページ：<https://motion-gallery.net/projects/k2-cinema>

シモキタ - エキマエ - シネマ『K2』概要

- ・1スクリーン ・70席 ・2022年1月開館予定
- ・東京都世田谷区北沢2-21 [tefu lounge](#) 2F （シモキタエキウエ直結）
- ・名前『K2』に込めた思い

様々な文化のつぼである下北沢の、しかも誰もが立ち寄りやすい駅直結の場所にミニシアターは生まれます。そんな映画館が出来る場所は、世田谷区北沢2丁目。このとても貴重な出来事をこの映画館が立つ場所「北沢2丁目」を映画館の名前に刻むことで表現するのはどうだろうかと考えました。あわせて、映画を完成させるまでに多くの困難や山を突破し登り切り、その結果多くの人に観ていただくハレの舞台の1つである映画館。ここを最高峰の場所となるべく目指して運営していきたいという決意も込め、カラコルム山脈にある世界の最高峰の一つ『K2』からも名前を取りました。

運営主体：Incline（インクライン）

～MotionGalleryを含む5社により映画・アートなどを企画プロデュースする団体

昨年公開した『スパイの妻』（第77回ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞受賞）、『偶然と想像』（第71回ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞）、『鈴木さん』（第33回東京国際映画祭「東京プレミア2020」選出）は、Inclineメンバーによるプロデュース作品です。『スパイの妻』以外は配給も行っています。昨年の「ミニシアター・エイド基金」にもInclineメンバーであるMotionGallery代表・大高も発起人として参加しました。その際、応援のリターンのために、多くの映画作家の方から限定でご提供いただいた映画作品を鑑賞できるようにした配信プラットフォーム「サンクス・シアター」は、Inclineの1社「株式会社ねこじゃらし」の開発です。今年12月には、その「サンクスシアター」の発展型として、劇場公開予定の『偶然と想像』の配給に合わせ、ミニシアターでのリアル映画館上映とオンライン配信の共存を目指すバーチャル・スクリーン『Reel（リール）』という配信サービスをリリースします。Inclineはこのような活動を通し、作品作りだけではなく、土壌となる環境づくりにも取り組んでいます。

画像一式：<https://bit.ly/3weNJfL>



MOTION GALLERYは、みんなの共感をパワーに、社会に新しい体験・価値観をもたらす創造的なプロジェクトを実現するクラウドファンディング・プラットフォームです。<https://motion-gallery.net/> ▼Podcast <https://propo.fm/motiongallerycrossing>

【報道関係者の問合せ：PR 村上晴香 Tel：090-5074-2320 Email：harukamurakami@mgly.jp】